

平成26年8月1日発行

鯖街道 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会
福井県三方上中郡若狭町熊川
TEL/FAX (0770) 62-0330
熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>

伝建協議会 全国大会特集



第36回 全国伝統的建造物群保存地区協議会 総会・研修会 開催 熊川宿へ323名 住民あげておもてなし

全国88市町108地区の重要伝統的建造物群保存地区が加盟する協議会の第36回総会・研修会が3日間をかけて若狭町や熊川宿を会場に開催されました。予想を大きく超える357名の申込みがあり、22日午前中より、全国各地からお越しいただきました。

主な行程は次の通り

◇5月22日(木)第1日目
受付・総会(行政)・事例発表・記念講演・情報交換会(レビア)

◇5月23日(金)第2日目
現地視察(熊川宿)・昼食・文化庁講演・住民意見交換会・全体会・情報交換会(熊川小学校)

◇5月24日(土)第3日目
ブロック会議(行政)・町内文化財施設等視察(若狭三方縄文博物館・佐久間記念交流会館・脇袋古墳群・歴史文化館)・現地視察(小浜西組・明通寺/オブション)
若狭町や熊川宿では、行政を中心に半年前から実行委員会や視察研修部会・交流部会を立ち上げ、会議や準備を重ねてきました。当日は、各住民団体はじめ、子どもから年配者まで多くの地区民の方々にご参加ご協力いただき、無事盛会で終えることができました。(215ページに詳細記事)

目次

伝建協議会 全国大会	155
寄稿文	657
新着情報・事業計画・活動報告	7
活動報告・話題	8

事例発表

行政対象の総会で、来年の開催地に海野宿で知られる長野県東御市が決まりました。

初めに、パレオ若狹を会場に事例発表が行われました。

東御市さんは「海野宿は昭和62年選定。出桁造り・うだつが特徴。

養蚕が盛んだった。宿泊施設やレストランに活用している」と発表されました。

小浜西組さんは、「伝建選定に年数が多かった。町家を活かしたイベントを行っている。まちづくりは始まったばかり」と発表されました。

小浜西組は、

若狭町のお隣で、平成20年に重伝建に選定され、「ベンガラ格子の灯るまち」を合言葉に町並み保存が進められ、「町家deフェスタ」など町並みを活かしたイベントが行われています。昨年11月には熊川宿と合同で、地域づくり団体全国大会の分科会を行いました。

記念講演会

記念講演会では初めに、熊川宿と交流のあるブータンからお祝いのビデオメッセージが紹介され、

西村幸夫先生が「有機的なまちづくり」をテーマに講演。昭和60年代に熊川小学校の児童たちと町並みを調査されたことや熊川宿の伝統行事、活動団体を紹介され、「地

域環境を守り、現代のニーズに合った環境にプラスになることがやれるか。そして地域経済の活性化に繋げていくことができるか。まちづくりと現代社会のバランスをとることが大切」と講演されました。

さらに、「有機的なまちづくりとは、単なる文化財を越えて地域の個性を発して持続可能なまちを作っていくために、歴史的な物をいかにうまく利用するかという

最後に、小山工業高等専門学校の前谷勇雅講師による「伝建保存地区における総合防災事業の開発」について研究報告がありました。

また、パレオ若狹ギャラリーでは、全国108ヶ所の伝建地区を紹介した写真パネルが展示されました。

その後一行は、会場をレピアに移し情報交換会が開かれました。

※西村幸夫氏プロフィール
東京大学大学院工学系研究

科都市工学専攻・同大学先端科学技術研究センター所長、

東京大学副学長・工学博士

昭和60年代、当時の熊川小児童たちと熊川宿を調査。その後もまちづくりについてご指導をいただいている。

※東御市プロフィール
長野県北東部に位置し、人口約三万二千人。昭和62年4月に重伝建選定の海野宿は、かつて養蚕町としても栄えた北国街道沿いの宿場町。今回の伝建協議会全国大会総会で、来年の開催地に決定した。

と、ここまでまちづくりが進んでいて「と考える」と話されました。

伝建のまちづくりに理解深め

さらに、「有機的なまちづくりとは、単なる文化財を越えて地域の個性を発して持続可能なまちを作っていくために、歴史的な物をいかにうまく利用するかという



全国伝建地区写真展

情報交換会(レピア)

初めに、玉井喜廣大会実行委員長、野村典兒伝建協会長の挨拶、森下裕若狹町長、福谷洋若狹町議会議長から歓迎の言葉や祝辞をいただきました。続いて、郷土芸能「神子の正月神事(餅つき)」を鑑賞しました。

情報交換会では、三方民宿組合協議会によるお刺身の舟盛りや豪華なお料理が用意され、会場いっぱい参加者は、食事をしながら銘々に情報交換をされていました。

終わりに、次回開催地の東御市が紹介され、20余名が壇上でPRされました。

東御市さんのPR



舟盛り料理



神子の正月神事(餅つき)



東御市さんのPR



情報交換会(レピア会場)

元気いっぱい!「子ども語り部」に感嘆の声

なかでも地元小学生が元気がいっぱい「子ども語り部」を務めました。31人が2ヶ所に分かれ参加者を持ち受けました。旧逸見勘兵衛家は、伊藤藤竹之助の生家で熊川宿を代表する町家であることを説明。一箱



子ども語り部(旧逸見勘兵衛家)



子ども語り部(松木神社)

階段は重い人が乗ると穴が空いてしまいます」などとユーモアを交えながら、わかりやすい口調で話していました。松木神社では、厳しい年貢の取り立てに身をもって立ち向かった松木庄左衛門(長操)を祀っていることなどを説明していました。参加者からは、「よくがんばったね、すごくよかったよ」などと労われていました。陣屋跡のいっぶく処では、女性の会のメンバーが葛ようかんや長操館の振る舞いでもてなしました。※長操館・熊川の隠れた特産品。女性陣が高齢者から教わり作れるようになった。



荻野家住宅



下ノ町を視察する参加者



いっぶく処での振る舞い



懐かしの看板展示

また、まちづくり委員会広報部は、12団体の活動内容を紹介したポスターを掲示しました。福井新聞社は、移動編集車を出し「マイ号外」を発行。小学生の活躍をいち早く参加者や区民に伝えました。



福井新聞 号外



熊川小全校児童による発表

現地視察(熊川宿)

参加者323名が8班に分かれ、それぞれ語り部2名とサポート係と一緒に熊川宿内を視察研修しました。各班が熊川宿内を一往復する周回コースが設定されています。平入や妻入・土蔵が混在しながらも一連の家並みを形成する熊川宿を歩きながら、重要文化財に指定された「荻野家住宅」、平成の名水百選の「前川」、空き家を有効活用した「体験交流施設与七」など20ヶ所余りの説明を聞いて回りました。

なかでも地元小学生が元気がいっぱい「子ども語り部」を務めました。31人が2ヶ所に分かれ参加者を持ち受けました。旧逸見勘兵衛家は、伊藤藤竹之助の生家で熊川宿を代表する町家であることを説明。一箱



現地視察(熊川宿)

昼食(熊川小学校)

一行は、熊川小学校体育館で昼食をとりました。アトラクションで熊川小児童が熊川でのイベントや文化祭などの様子を発表し、20名の児童全員が熊川宿の魅力を替え歌で披露しました。参加者たちは、子どもたちの活躍に大きな拍手を贈っていました。



熊川小全校児童による発表

文化庁講演

2日目午後からは、パレオ若狹で文化庁講演が行われ、文化財調査官の金井健氏が「住民と共にまもる伝建地区」をテーマに講演されました。

初めに、伝建保存地区の分布、新規選定地区の概要、伝建制度の枠組み、修理と修景の違い、補助事業額の推移などを全国の例を挙げながら説明されました。

防災面では、「第一にまちの特性を把握、第二に防災設備を設置、住民参加も大切」と住民意識の高揚を強調されました。また、「空き家の活用と地域住民による運営が行われるのも伝建群を保存していく上では大切」と話されました。

最後に、伝建地区をまもるとは、「人が集い、町が生まれ、文化が育つ。すなわち町並みというのは住民あつてのもので、生活環境である町並みに、住民自身が愛着や誇りを持っていることが重要。そこへ国、都道府県などの自治体と連携してアイ



デンティティを高め、伝建地区をよりよいものにしていくのが本来の姿」とまとめられ講演を終わりました。

住民意見交換会・全体会

続いて、四つの会場に分かれて住民意見交換会が行われました。参加人数が多く、大きな会議となりました。熊川住民代表の司会で、小浜西組町並み協議会代表の方が書記を務めて下さいました。

続いて、住民全体会が開かれ、各司会者から意見交換会のまとめが報告されました。

まちづくりの思い熱く意見活発



1-1班：歴史資源や自然環境について



1-2班：歴史資源や自然環境について



3班：公園施設について



2班：防災対策について

1の1班：歴史資源や自然環境について
「自然に逆らわず、環境を活かしたまちづくりをしたい。屋根雪下ろしが大変。歴史資源として書物を残すことも重要。空き家が無いという地区もある。行政も入っていただけたらよかったの声も」

1の2班：歴史資源や自然環境について
「茅葺きを守り茅を育てて自然環

境を守る。住民第一だが来訪者は歓迎しもてなす。観光地化してお店として空き家を使ってもらうのと相反するところは今後の課題か」

2班：防災対策について
「金井調査官の講演が全てを語っている。非常食を配って、高齢者を交えて楽しく訓練。放水銃の活用。防災対策は、ハード面ソフト面共充実している所が多数ある。歴史の浅い地域は情報収集の機会になったのでは」

3班：公園施設について
「予想に反して集客は十分でない。管理は指定管理者制度やシルバークンセンタール等を活用。施設が多い所は無人数になり困っている。雪対策に苦慮」
(意見は全体会での報告より抜粋)

伝建のまちづくりについて、西村先生の記念講演をはじめ、文化庁講演、住民意見交換会、全体会、さらに情報交換会を通して行政や住民の方から中身の濃い、有意義なお話やご意見をお聞きできました。



全体会での報告

情報交換会(熊川小学校)

2日目の夜は、熊川小学校体育館で、住民主催の情報交換会が開かれました。熊川在住のエンターテイナー曾我廼家福輔さんこと中尾和徳氏の司会で、初めに熊川宿伝統芸能保存会メンバーによるてっせん踊りが披露されました。この踊りは、かつて京都から伝わった優雅な踊りで鳴り物を一切使いません。京都の一乗寺郷土芸能保存会より習い、15年前に80年ぶりに復活しました。

その後、食事をしながらの情報交換会に移りました。周囲には、和牛の鉄板焼き、長操鍋、焼き鯖、鯖寿司、揚げ物、葛まんじゅうの屋台が並び、銘々に好みの料理を食していました。



女性たちのおもてなし



てっせんの唄い手



てっせん踊り



熊川音頭



原田美佳さんと曾我廼家福輔氏



熊の灯り



情報交換会の参加者

による生唄に合わせてみんなで熊川音頭を踊りました。アンコールもあって大いに盛り上がりました。最後に、来年の開催地、長野県東御市の皆さんがステージでPRを行いました。続いて熊川宿まちづくり委員会の河合健一会長および実行委員メンバーがお礼の挨拶をしました。

帰り道には、グラウンドに陶の灯りで小路を作り、参加者をお見送りしました。「素敵！粋な計らいですね」と喜んで下さいました。両日の情報交換会を通して多くの方々におもてなしや対応ができたことに熊川の住民パワーの凄さを感じました。

心からのおもてなしで笑顔交流



スタッフで記念撮影



情報交換会

町内文化財施設等視察
現地視察(オフショーン)

3日目は、町内文化財施設等の視察研修が行われ、若狭三方縄文博物館、佐久間記念交流会館、脇袋古墳群、若狭町歴史文化館を見学しました。

午後からは小浜市へ移動し、民宿「さわ」で昼食をとり、2班に分かれて市職員の案内で小浜西組の町並みを視察研修しました。茶屋街の三丁町は三味線の音が聞こえてきそうな風情ある佇まいでした。商家町では、修理物件や点在する西洋建築物を見学しました。途中、町並み保存資料館で、葛まんじゅうの振る舞いがありました。

最後に、国宝の本堂と三重塔で知られる明通寺へ行きました。ご住職の講話をお聞きし境内を見学しました。荘厳な建造物に若葉が映えています。

一行は、若狭町歴史文化館に戻り、来年の再会を約束して解散しました。



明通寺



小浜西組視察研修

伝建協議会 全国大会を終えて

平成26年度熊川区长 西村 毅

5月24日(土)13時過ぎ、小学校の体育館で交流会の片付けをしていた、「伝建大会も終わったな……」とつくづく感じました。

思い起こすと昨年4月、「来年のために見に行こう」と薩摩川内市へ。全国から250人もの関係者が集まり、交換会で「来年はぜひ熊川宿へお越しやすー」とPRしてきました。12月からは実行委員会や部会などの打ち合わせを頻繁に行い、徐々に「大丈夫かな？うまいこと行くかな？来て頂いた方に満足して帰って貰えるかな？等々、心配ばかりで……」

ふたを開けてみると、さすがに町の職員。歴史文化課の永江課長以下精鋭の皆さんが、一致団結してうまくかじ取りを行いプログラムもスムーズに進行しました。

一番の心配の現地視察と熊川小体育館での情報交換会では、区民の皆さんのご協力とご支援で、今までにない、手作りで心のこもった交換会となりました。特に参加された方からは「小学生が立派に語り部をしていた」「長い台詞をすらすらと、それもはきははと聞き取りやすく説明してくれてこれだけでも来た値打ちがある」など、多くの方々におほめの言葉を頂き

ました。また、福井新聞の号外にも大きく取り上げて頂き、現地で開け

なかった方々にもその内容が思い浮かんで頂けたかと思えます。

これ以外にも、自宅周りの清掃や玄関先に花を飾って頂いた区民の皆様方をはじめ、会場設営や片付けにお世話になった若鮎塾、消防、さらには地区の有志の皆さん、長操船や葛羊羹、葛饅頭のおもてなしの会の皆さん、長操鍋やいっぷく処、交換会でお世話になった熊川地区女性の会の皆さん、昼食の弁当や夕食の料理、また屋台で出来たての料理をお世話になった料飲組合の皆さん。体育館を快く

伝建大会をふりかえって

熊川女性の会 山下 みつ江

何もわからずに実行委員会のメンバーとなり、去年の薩摩川内のビデオを何回も見せてもらいましたが、とても不安でした。準備のため各部会に分かれ協議を重ねていくうちに形が見えてきました。五月に入り、祭りやツデーマーチの鍋のふるまひ、実家の田植えなど慌ただしく当日を迎えました。情報交換会一日目のレビアでは、

お貸し頂き、葛プリンや特に反響の大きかった子ども語り部の熊川小学校並びに児童の皆さん。そのほか本会の運営に関わって頂いた多くの方々のご協力の賜物であり心から厚く御礼申し上げます。

今になって感じるのは、「よくぞあれだけの事が出来たな……」ということ。個人やグループ単位で計画してもとても出来なかつた内容で、それが出来たのは関わった全てのメンバーが「するんや！絶対やるんや！」と心を一つに出来たことが成功のカギであったと思っています。

この経験を熊川宿の今後の活動に活かしてゆく事が大切だと感じています。

鯛、鮮の舟盛りやつきたてのお餅は喜ばれていました。

二日目の視察は天気は良くありませんでしたが、熊川・新道女性の会六名で熱いお茶と葛ようかんと長操船を一人一人声をかけ手渡ししました。夜の情報交換会では見送り幕、お化けちようちん、屋台櫓を囲んで恩地美佳さんの歌声に合わせて熊川音頭で盛り上がり、熊川らしいおもてなしができたのではないかと思います。たくさんの方々との交流ができ、楽しく参加させていたいただき、熊川宿の良さを実感できました。

伝建協大会をふりかえって思うこと

若狭町歴史文化課 主事 岡本 晃 明

「熊川宿で町並みの全国大会を行う」

私が知ったのはちょうどこの大会が開催される一年前の鹿兒島県薩摩川内市大会でした。果たしてどのような大会が自分たちの町で出来るのか、大会事務局として何を準備すれば良いのか、不安であったことは確かです。

しかし、伝建地区の活動を支えている熊川区や新道区の皆さんや町内関係団体の皆さん、そして役場スタッフの関わりにより会議を重ね、熊川ならではのアイディアを盛り込みお客様を受け入れる形が創り上げられてきたことは、大変素晴らしいことであつたと思えます。

大会当日はまさに「二丸」となり、「心からのおもてなし」につながつたと感じています。元氣よく発表を行った熊川小学校の子どもたちからもパワーをもらい、勢いのある大会となつたのではないのでしょうか。

若狭町、熊川宿で大会をみんなでもやり遂げたこの貴重な経験を、今後のまちづくりへの推進力へと変えていければと感じています。

伝建協議会 全国大会開催の御礼

若狭熊川宿まちづくり特別委員会 会長 河合 健一

5月22日～24日に開催されました全国伝建協議会若狭町大会は、全国各地より予想以上の参加をいただき、賑やかに終えることができました。これほどに行政はもとより各団体、地区住民の皆さん、特に女性の方々のご協力のお蔭と感謝しております。

この大会は、以前、情報交換会で「全国大会を熊川宿でぜひしていただきたい」と強く勧められ、その雰囲気引き受けたのが始まりでした。当初、会場やスタッフ等いろいろ問題が出て、大変なものを引き受けたとの思いでしたが、実行委員会・視察研修部会・おもてなし交流部会で議論を重ねていくうちに、「こ

れならいける」と感じました。

た。そして当日は、よくやっただ。すばらしかった。特に小学校児童さんの語り部に多くの人からお言葉をいただき、住民の皆様のおもてなしの心を感じていただいたものと確信しました。

また、懐かしい方々と話も出来ましたが、世代交代が進んでいることも実感しました。老若男女力を合わせれば「熊川宿は萬歳」と確信しました。この大会を機会に、新しい感性で熊川宿まちづくりに参加して、よりよいまちづくりを進めていただきたいと思います。

地区住民の皆様、関係各位のご協力に心から御礼申し上げます。

平成26年度 若狭熊川宿まちづくり特別委員会 事業計画 (H26.6)

- 4月19日 体験交流施設「与七」竣工
(若狭町・下ノ町同会主催)
- 5月17日 ツーデーマーチ協力
- 5月22日～24日
第36回全国伝建協議会 総会・研修会
- 6月11日 まちづくり委員会・合同部会
- 6月14日 ホテル観賞と陶の灯りの夕べ
(熊川宿はたる生息研究会主催)
- 6月28日～29日
北信越町並みゼミ妻籠大会
- 6月29日 七夕飾り
- 7月15日 若狭町伝建審議会
- 7月下旬 町並み通信第29号発行
- 7月下旬 白石神社や町並みの清掃
- 8月13日～15日
街かど陶の灯り展H26
- 9月 まちづくり委員会・各部会
- 10月5日 第15回熊川いっぶく時代村
(時代村実行委員会主催)
- 11月7日～9日
全国町並みゼミ鹿島精野大会
- 12月 まちづくり委員会・各部会
- 平成27年
- 1月下旬 町並み通信第30号発行
- 2月 熊川宿まちづくり総集會
- 3月 最終まちづくり委員会

<随時>

- ・全国伝建協全国大会の準備
- ・空き家を活かした移住推進事業の継続
- ・風景街道支援事業の要望
- ・町並み関連の駐車場、前川、道路、神社の清掃と草刈り、看板の補修等
- ・ホームページ更新
- ・委員会、役員会、部会を開催
- ・若狭町並びに近隣のまちづくり研修・交流会に参加

熊川宿体験交流施設「与七」竣工



4月19日、森下町長をお迎えし、オープニング式典と完成披露パーティーが行われました。下ノ町ゆかりの親孝行息子「与七」にあやかって命名されたこの施設は、国交省の社会資本整備総合交付金・空き家活用推進事業の支援を受けて整備されたもので、趣味の作品展示や体験教室に利用できる和室2室と、長年要望の多かった休憩室やトイレを備えています。

- ◇体験等使用は有料・予約制
- ◇お問合せは若狭町歴史文化課 TEL 0770-62-2711

1/26

文化財火災防ぎよ訓練

(若狭町・若狭消防署上中分署)



国の重要文化財に指定された萩野家住宅(倉見屋前)で、若狭消防署員による放水訓練やウォーターカーテン、住民対象の初期消火訓練が行われました。あいにくの雨模様でしたが、いつ起きるかわからない方が一のため、参加者は真剣に訓練に取り組んでいました。

2/15

まちづくり総集會

(熊川区・まちづくり委員会)



松下区長、森下町長の挨拶に続き、河合会長は「伝建協全国大会に向けてみんなで協力したい」と話されました。次に若狭町歴史文化課職員から、バス整備や宿内舗装工事、下ノ町に整備された体験交流施設、さらに伝建協議会全国大会について説明がありました。

3/20

伝統芸能練習始まる

(熊川宿伝建協保存会)



今年も定例会が始まり、てっせん踊りと熊川音頭を練習しています。5月の伝建協議会全国大会と盆踊りに向けて、練習にも熱が入っています。大会では2日日夜の情報交換会で披露されました。なお練習は11月まで毎月10日と20日、午後8時から熊川児童館で行って見学も可能です。



5/3

白石神社祭礼で山車巡行

(熊川区・祭礼実行委員会)

恒例の白石神社祭礼が行われ、午後から子どもたちを載せた山車が区内を巡行しました。大杉へは御輿と子どもたちが巡行し、2ヶ所で囃しました。下りヤマでは天候もすっかり回復し、晴れ間が覗く穏やかな祭り日和になりました。



4/26

宿内街道の再舗装が完成

舗装の傷みが激しくなってきたこと、伝建協全国大会を迎えることから、県や町の協力で宿内街道の舗装を全面的にやり直しました。今回の舗装は、半たわみ性舗装という、アスファルトの隙間に特殊セメントミルクを浸透させたもので、地道風の美しい街道が蘇りました。



3/20

若狭熊川まちなみ芸術祭 2014

主催…若狭熊川まちなみ芸術祭実行委員会
後援…若狭町
協力…熊川宿おもてなしの会

福井大学准教授坂本太郎氏による造形作品の展示とアーティストトークが開かれました。旧逸見勘兵衛家の古風な蔵と現代芸術が見事に融合しました。また、4月30日からは東京の現代美術家羽山まり子氏の作品展が開かれました。古い家財道具を積み上げたインスタレーション(空間芸術)が特徴です。



6/29

七夕飾りに願いを込めて

(まちづくり活性化部会)

まちづくり委員会のメンバーが手分けして七夕飾りを作り、願い事を書いた短冊を集めて、29日午後、3本の笹竹に飾り付けを行いました。今年、沢山の飾り物や短冊が出来、通りがかりの観光客や地元の子どもたちも手伝ってくれて、とても賑やかな七夕飾りが出来ました。



6/15

西山稻荷春の祭り(西山稲荷神社)

商売繁盛の神様西山稻荷神社の春の祭りが5年ぶりに行われました。昨年9月の台風でケヤキの太木が倒れ被害を受けましたが、若狭町の伝建補助で鳥居と玉垣の修理が完了しました。神社を管理する一番組では、この秋の祭りに若狭では珍しい「おひたき」が復活できないか話しているところです。



5/17

ツデーマーチおもてなし

第23回若狭三方五湖ツデーマーチが行われ、1日目の鯖街道コースとなった熊川宿へ約1000名のウォーカーが訪れました。宮本音響係によるBGMに載せて曾我廼家福輔氏のMCと、まちづくり委員会や女性の会のメンバーが拍手で迎え、熊川名物「長操鍋」を振る舞いました。



旧逸見勘兵衛家蔵ギャラリーで懐かしの看板展

開催中
入場無料

主催：若狭町
共催：熊川宿おもてなしの会
期間：8月31日(日)まで

明治から大正・昭和時代の熊川や近隣の商店で活躍した看板を集め展示が行われています。先の伝建協議会全国大会2日目の熊川宿現地視察でも北條家前をお借りして展示されたもので、産婆さんや薬屋さんなど当時の繁栄を物語る看板20点が集まりました。

あとがき

伝建地区が百地区を超え、百年に一回という「伝建協議会全国大会」が若狭町及び熊川宿を会場に行われました。

三日間を通してまずまずの天候に恵まれ、行政はもとより各住民団体の絶大な協力があった実にも多くのスケジュールをこなし、大過なく終えられたことを嬉しく思います。特に女性の方々は、前準備から当日のおもてなし、踊りへの参加など掛け持ちも多忙な思いをされたことと思います。参加者もスタッフも終始笑顔がこぼれていたことが印象的でした。皆さん、本当にお疲れ様でした。

(編集委員)

◇伝建協議会全国大会協力団体

若狭町・熊川区・熊川地区地域づくり協議会・熊川小学校・熊川公民館・若狭熊川宿まちづくり特別委員会・熊川区自主防犯会・熊川宿伝統芸能保存会・熊川宿町並み保存伝建技術研究会・熊川いっぴく時代村実行委員会・熊川宿おもてなしの会・熊川宿はたるとる生息研究会・熊川宿振興会・若狭町の祭り部・熊川宿観光組合・熊川女性の会・新進女性の会・若狭宿・熊川自衛消防団・河内川ダム共同企業体・若狭三方五湖観光協会・上中科飲組合・三方民俗組合協議会・神子区・かみなが農楽会・小浜西郷町並み協議会ほか

(敬称略・題不削)